

ペチュニア・・・



春から秋頃まで咲き続け、雨や暑さに強いだけでなく、梅雨時に発生しやすい植物の病気にも強いので、とても育てやすい植物です。

ところが、日本に「ツクバネアサガオ」の名称で渡来した当初は、雨で育成不良を起こしたり枯れたりすることが多く人気は今ひとつでした。1980年代にサントリーが遺伝子組み換えによりサフィニア（ほふく性が強いことから英語の Surfing と、ペチュニアを掛け合わせた言葉に由来）を出してから、一気に人気が高まりました。現在、園芸各社で品種改良の競争が進み、一層の多様性を深めています。

原産地は南アメリカで、18世紀にフランス人によってヨーロッパに伝えられたのが始めだと言われています。その後、品種改良が進み、大輪、中輪、小輪と花の大きさに加え、赤、紫、白などの多彩な色や八重咲きのものが作り出されるなど、バラエティに富むものになりました。

ペチュニアとは、ブラジル先住民の言語で「たばこ」の意味で、花がタバコの花に似ているためです。